

MTIにおける営業活動（2015）

2015年11月24日
株式会社MTI 営業グループ
上席研究員 高橋 寿和

1

© Copyright 2015
Monohakobi Technology Institute

2013年4月に営業グループが誕生

《設立目的》

- 船舶・物流業界への更なる貢献
- NYK/MTIの保有する知財・ノウハウの業界への還元
- MTIのサステナブルな研究開発活動支援

《活動内容》

- YOKOHAMA LABにおける振動・耐震試験受託
- 研究開発で培ったノウハウを利用したNYK以外への調査・計測・試験業務など技術コンサルティング
- 研究開発成果品の拡販支援

2

© Copyright 2015
Monohakobi Technology Institute

《活動内容》

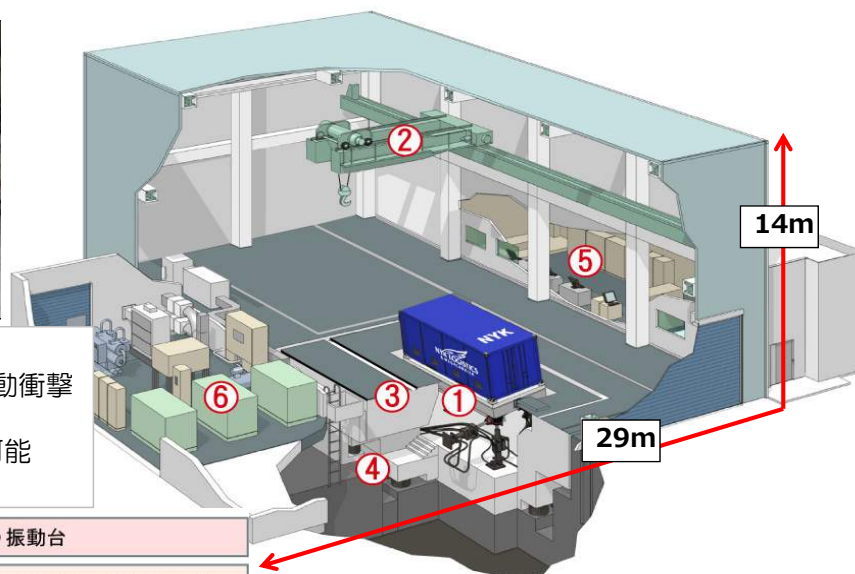
- YOKOHAMA LABにおける
振動・耐震試験受託
- 研究開発で培ったノウハウを利用したNYK以外への調査・計測・試験業務など技術コンサルティング
- 研究開発成果品の拡販支援

YOKOHAMA LABにおける振動・耐震試験受託



大型振動台

- ・ 鉄道輸送、トレーラ輸送での振動衝撃
 - ・ 船舶輸送での動揺
- 3軸6自由度の振動を忠実に再現可能
東日本大震災以降、耐震試験多い



① 振動台

② 天井クレーン(25トン)

③ 浮基礎

④ 空気バネ

⑤ コントロール室

⑥ 機械室

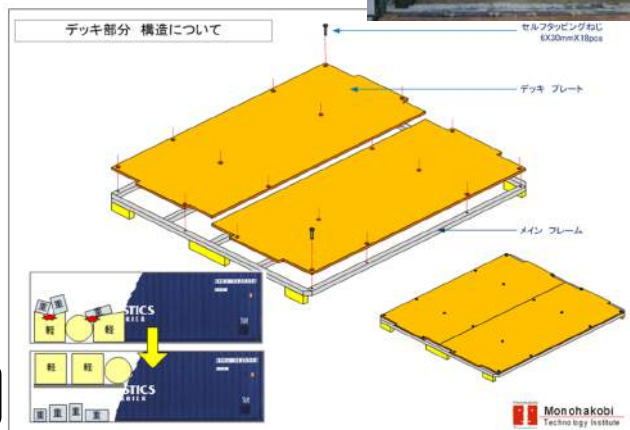
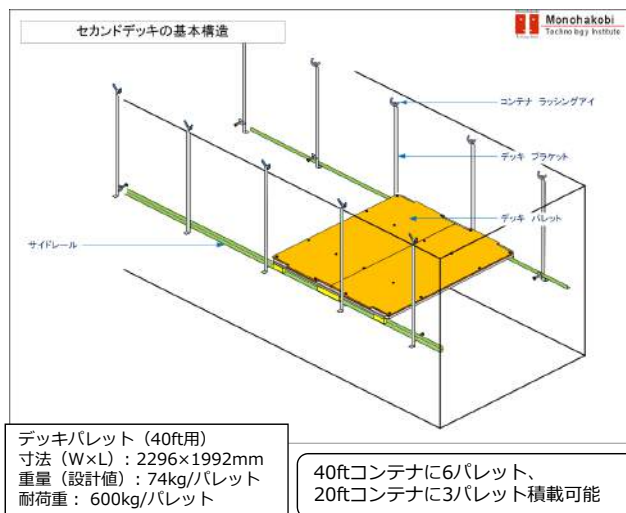
振 動 台	
形式	3軸6自由度
寸法	2.6m×6.2m
最大積載重量	20ton
最大加速度	水平2.0G/鉛直3.0G
最大傾斜角度	20°

MTIの物流技術ソリューション – 海上コンテナ用セカンドデッキ –

セカンドデッキの利用により海上コンテナの積み付け効率アップを実現します！

【セカンドデッキの特徴】

- コンテナの天井(ラッシングアイ)から吊るすという新しいコンセプト
- コンテナへの取り付け、取り外しも簡単
- サイドレールの位置を調節することで、デッキパレットを貨物の高さに合わせることも可能
- 様々な形状の貨物や、段積みができない貨物の積み付け効率をアップ、ダメージ軽減を実現



5

© Copyright 2015
Monohakobi Technology Institute

《活動内容》

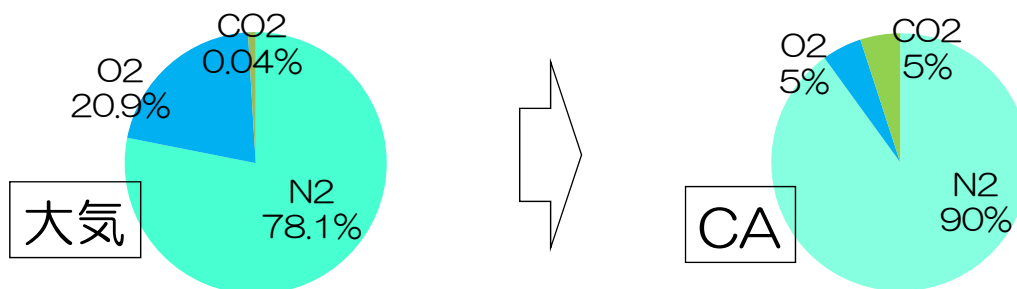
- YOKOHAMA LABにおける振動・耐震試験受託
- 研究開発で培ったノウハウを利用したNYK以外への調査・計測・試験業務など **技術コンサルティング**
- 研究開発成果品の拡販支援

6

© Copyright 2015
Monohakobi Technology Institute

≪CA (Controlled Atmosphere) とは≫

酸素濃度を下げ、呼吸作用を抑えることにより、
青果物の品質低下を防ぐ事で長期貯蔵
を行う技術



東京新聞 TOKYO Web 県、冷蔵コンテナ実験 鮮度維持、客層広げる 2015年5月26日

東南アジアへの農産物輸出拡大を目指す県は二十五日、作物の鮮度を長持ちさせる特殊な船便用冷蔵コンテナの貯蔵実験を、茨城港の常陸那珂港区（東海村）で始めた。品質を落とさずに低コストの船便を活用することで、販売価格を抑え、富裕層以外に客層を広げていく考えだ。

実験に使う「CAコンテナ」は日本郵船のグループ会社が開発し、アボカドの輸入などに使われている。コンテナ内の空気の成分を調整して野菜や果物を冬眠状態にさせたり、湿度を高めて野菜の水分を保ったりできるという。

この日はメロンを中心に、ハクサイやトマトなど約二十品種を数箱ずつコンテナに積んだ。輸送中の二週間と到着後の一週間で想定しながら空気の成分を調節し、三週間後に取り出して品質を調べる。

県によると、東南アジアへの輸出は航空便が中心だが、船便の五倍の輸送コストがかかる場合もあるという。一方、船便は鮮度維持が課題となっており、この実験が成功すれば本格輸出に弾みがつく。

農産物の輸出は福岡県を中心に九州がリードしているといい、CAコンテナも福岡県が既に利用中。茨城県販売流通課の担当者は「なんとかな先進県に追いつきたい」と話した。



コンテナに農作物を積み込む担当者ら＝茨城港で

東京新聞 TOKYO Web

【析木】

県産農産物輸出拡大へ安価な船便 マレーシア向け試験輸送

県産農産物の輸出拡大を目指し、県は五日、コストの安い船便によるマレーシアへの試験輸送を始めた。この日は宇都宮市の物流会社で保冷コンテナへの積み込み作業があり、栃木、茨城、群馬各県産の十六種類の野菜果物がトラックで東京港に向けて出発した。

試験は長期間の輸送による農産物の品質影響を一つずつ調査するのが目的。八日に東京港を出発し、マレーシアには二十三日の到着予定だ。その後検疫などを経て、現地での流通を想定し、二十六日と十二月十日に品質検査を実施する。

積み込み作業前には、県やとき農産物マーケティング協会の担当者らが、予備検査で県産ナシ「にっこり」や県産イチゴ「とちおとめ」などの鮮度を確認。農産物の総重量は約二百キロに上り、二台のコンテナに分けて積み込まれた。

県によると、二台のコンテナのうち一台は窒素ガスの発生装置を備えた「CAコンテナ」と呼ばれる最新型。青果物の呼吸作用を抑えて鮮度を保つ機能があり、その効果も調査するという。今回の試験輸送で問題がなければ、十二月から「にっこり」などの本格輸出に取り組み見込みだ。

・ 東流通経済課マーケティング対策班の高橋正さんは、船便ならコストは航空便の三分の一から五分の一程度に抑えられるとした上で、「東南アジアは原産事故の輸入制限も少なく、手頃な価格で提供できる可能性がある。昆産の味を多くの人に届きたいと期待していた。（経産省也）

昨年ご紹介した CA輸送のその後(1)

福岡大同青果(2)日本經濟新聞

2015.10.8

九州経済界の出資企業

アジアに農産物売り込め

九州の経理系へは出資する九州農水産物が出（福岡市）が農産物のアジア市場開拓に乗り出し、香港やシガポール、フリントなどで約80店の小売店を展開する香港のデリー・フアムと連携。まず港に月期に20店舗で販売する予定。アジアでは、質の高い食品への関が高まっており、新鮮な水産物、畜産物や加工品を輸出する。販売店は50%出資する。九州農水産物は、2016年度に、香港に1店舗、中国に4店舗、アジア各都市に10店舗を開拓する。11月には、香港に基本契約を締結する。3千万円を目標とする。デリー・フアムは、香港に本社を置く英系総合企業で、アジアに本拠地を置く。香港に本社を置く英系総合企業で、アジアに本拠地を置く。香港に本社を置く英系総合企業で、アジアに本拠地を置く。

香港小売り大手と連携

での販売もマキシムスへの納入にまわっている。

九州農水産物直販は九州経済連合会の麻生泰会長が会長を務める麻生（福岡県飯塚市）が8月末に設立した。課本平津経済連携協定（TTP）で日本の農業の競争力強化が課題になるなど、九州の農産品の輸出拡大をめざして9月末には増資を実施。JA宮崎経済連九州旅客鉄道（JR九州）、九電工、日本通運などが引き受けている。



フォークリフトからコンテナに農産物を積み込む
作業員たち＝東京都府中

昨年ご紹介したCA輸送のその後(2)

CAコンテナでの実輸送

《輸送実績》

博多⇒香港	横浜⇒タイ
博多⇒シンガポール	東京⇒マレーシア
博多⇒タイ	タ張⇒台湾

《輸送貨物》

レタス、水菜、春菊、ホウレン草、キャベツ、
サニーレタス、白菜、キャベツ、白葱、大根、
人参、玉葱、サツマイモ、ジャガイモ、
いちご、メロン など40品目混載



20ft CAコンテナの導入



輸出農産品の関税撤廃

+

海上輸送による輸送費削減

攻めの農業

野菜や果物の呼吸を抑えることで
鮮度を維持して寿命を延ばす

テレビ東京 (2015.10.21)
WBSで取り上げられる

九州アグロイノベーションで出展 2015.6

タイ、シンガポールなどへ
輸出検討されているお客様のお手伝い

9

*テレビ東京ワールドビジネスサテライト (2015.10.21放映)
画像より転用

© Copyright 2015
Monohakobi Technology Institute

《活動内容》

- YOKOHAMA LABにおける振動・耐震試験受託
- 研究開発で培ったノウハウを利用したNYK以外への調査・計測・試験業務など技術コンサルティング
- 研究開発成果品**の拡販支援

Monohakobi Technology Institute

空気潤滑システム 省エネ付加物 船艙内点検装置 性能維持

省エネ 燃料タンクサウンディングスケール 効率運航

省エネ新型ファン 運航モニタリングシステム (SIMS)

防振パレット-1 研究開発成果品

海上コンテナ用セカンドデッキ 輸送効率

結露事故防止シート 完成車管理用タグ

防熱シート 防振パレット-2

自動認識技術利用の倉庫内作業改善システム

© Copyright 2015 Monohakobi Technology Institute

Monohakobi Technology Institute

2015年11月1日 発売開始

SEMCO Smart Sounding Scale Honesty

製品リーフレット Rev.0.0

特長 / FEATURES

- メジャー先端部の着液と同時にアレージを読み取る。
- 泡には反応せず、実液面にのみ反応。
- 調達性の高い乾電池を電源として使用。
- 日本海事協会 (NK) 承認品。

利点 / BENEFITS

- 1タンクあたりのサウンディング時間を大幅に短縮。
- 補油時のカプチャーノバンカー (液面上の泡) に反応せず、正確な液面測定が可能。
- 燃料油だけでなく、バラスト水やビルジ等、無色透明の液体も計測可能。
- 外部電源が不要なポータブルタイプだから持ち運びが容易。

仕様 / SPECIFICATIONS

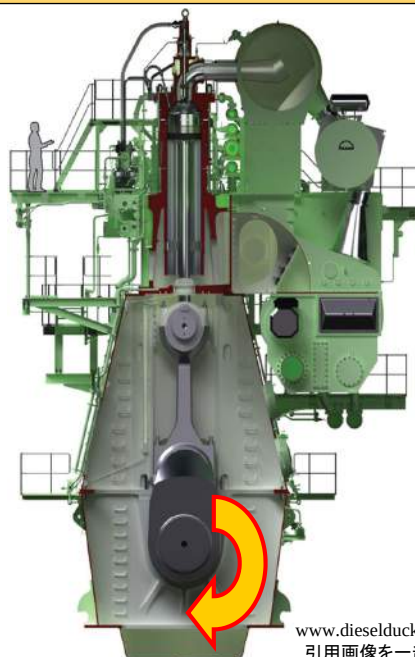
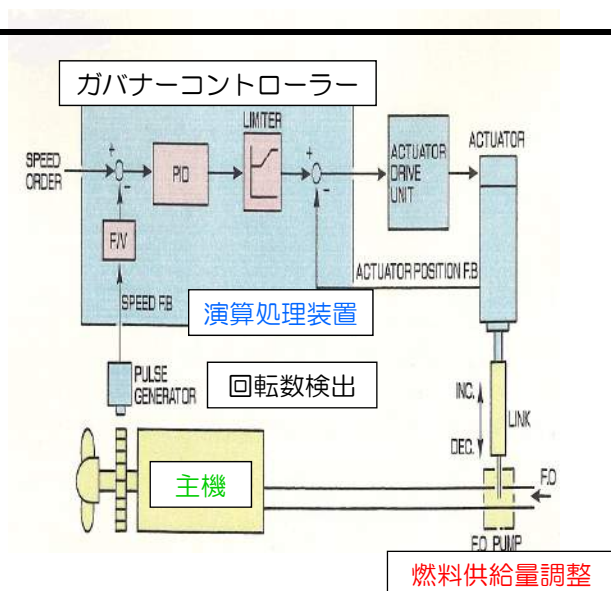
Sounding Scale Honesty	
センサー部 材質	SUS304
測定全長	30m
電源	乾電池 × 1 個 (9V 角型)
テープ仕様	2mm 刻みの目盛仕様 JIS1 級
センサー部外形	φ29 176mm

※本製品は防漏対応品ではございませんので、防漏区画では使用しないでください。

セムコ株式会社

© Copyright 2015 Monohakobi Technology Institute

【CO2削減】 制御を緩やかにし、燃料消費量を削減する省エネガバナーを開発



www.dieselduck.netより
引用画像を一部加工

© Copyright 2015
Monohakobi Technology Institute

⇒ 実運用の実績を積み上げる事が大事!!

自動車船などで実運用開始

- ・トラブルの発生がないこと
- ・省エネ運航に役立つこと
- ・運用は簡単であること

省エネ効果⇒1.3%

2007年から現在に至るまでNYKグループ会社だけではなく、
各船社9社の計270隻に搭載済み
 燃節効果「16億円/年（試算）以上」
 （燃料価格 350ドル/MT、1ドル120円換算）

**MTIとの共同研究開発の結果
 → NYKだけではなく、
 全世界へ向けた販売が可能**

コンタクト先

MTI

03-5222-7650
 Info@monohakobi.com

MTI HP URL

<http://www.monohakobi.com/>

- 新しい技術があるが、現場応用のアイデアが欲しい
- 製品イメージあるけど、実証する場がない
- 製品ができたが、第三者の評価が欲しい
- また、MTIが開発した製品を知りたいし、使ってみたい

⇒MTI営業グループにお気軽にお声掛けを！！



ご清聴ありがとうございました

